

JA自己改革のシンカ

暮らし・
地域編

No.2
2024.12.5

富山県 JAなのはな

農業者の所得増大・農業生産の拡大

勇気をもって一歩前に！

女性の活躍をJAと地域の発展につなげる

※シンカは、以下の3つの意味を含めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する
3つの「シンカ」



規格外のタマネギを活用し、女性目線で商品開発

JAなのはなは2022年8月、規格外のタマネギを生かそうと女性部が開発した「発酵玉ねぎ調味料」を発売し、谷井悦子組合長自らが直売所の特設ブースでトップセールスをしました。試食の炊き込みご飯を先着100人にプレゼントし、料理研究家による12種類の時短レシピも紹介。調味料1本でいろいろな調理に使えることを宣伝しました。JAなのはな管内では年間約85トンのタマネギを生産しますが、8%ほどが規格外品となります。「無駄にせず、生産者の役に立ちたい」との思いから、女性部が地元のマスイチ醸造と組んで調味料を完成させました。



商品を説明する谷井組合長[Ⓔ]

夏休み親子農業教室で子どもたちが地産地消を体験

今年8月には、女性部が企画した夏休み親子農業教室を実施しました。富山市水橋地区を中心に3市町にまたがる国営農地再編事業の畑で、JAなのはな管内の親子14人が加工用のトマトを収穫し、生食用のトマトとの違いを学びました。その後、会場を移して谷井組合長ら女性部7人のサポートで料理体験を実施。子どもたちが加工済みのトマトピューレやタマネギのこし汁などを煮込み、ケチャップにして瓶に詰めました。さらに、作ったケチャップと地場産野菜でナポリタンを作り、地元の野菜を使用したごちそうを味わいました。谷井組合長は「子どもたちが大好きなケチャップをテーマにイベントを企画しました。野菜本来のおいしさを伝えたい」と抱負を述べました。



トマトケチャップを瓶に詰める児童

女性ならではの感性でイベントを企画

「女性の活躍はJAの発展につながる。女性だからと一歩下がるのではなく、前に出る勇気を持つ」と谷井組合長が話すように、女性部の活動は、女性ならではの感性で、JAや地域の活性化につなげることを狙っています。今後は、子育て中の若い世代へ、地元の農畜産物を活用して食の安全・安心を伝えるための食農教育を実施する予定です。特に米の大切さやおいしさを伝えて米の消費拡大につなげたり、先人達から受け継いだ郷土料理などの知識を次世代へ伝えたりする活動に力を入れます。そのほか、身体の血液循環を促す健康体操「レインボー体操」やキッチンカー「キッチンなのはな」などで地域のイベントに参加し、JAと地域の活性化に貢献していきます。

女性組織を 設置しているJAの割合



2024年4月時点

95.5%



問い合わせ JA全中 JA改革・組織基盤対策部 JA改革・組織基盤対策課 ☎03-6665-6240 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧いただけます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行/JA全中(一般社団法人 全国農業協同組合中央会)



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。